

# 平成29年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

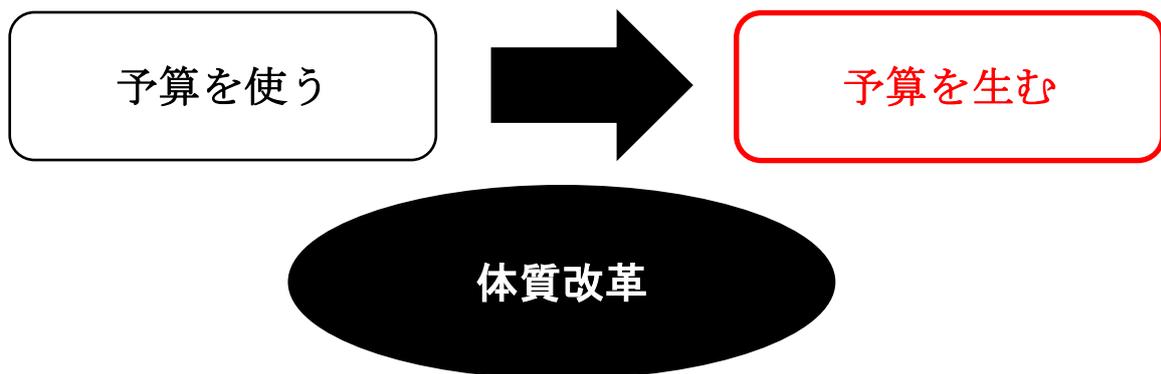
## 世界でメダルを取る アジアの盟主となる

### 基本的な運営方針

#### 1. 背景

男子は1988年ソウルオリンピック、女子は1976年モントリオール以来、オリンピック出場を果たしていない。2016年リオデジャネイロオリンピックの出場権も逃した。

2019年熊本女子世界選手権・2020年東京オリンピックで男女ともメダルを目指すため、ハンドボール協会の抜本的改革を目指す。



#### 2. 基本方針

1) 2019年女子世界選手権、2020年オリンピックの強化

メダルにチャレンジ

2) 日本協会の改革 事業執行の透明化と確実な決済

3) 将来構想 2020以降の自立運営レガシー確立

## 1. 競技力向上（強化）に関する事業

《強化》

### 【基本方針】

2019年女子世界選手権・2020年東京オリンピックに向け、世界基準のフィジカル強化・戦術の習得・技術の習得・メンタルの強化・人間力の強化などをその図り、強化の恒久的なシステムの構築を推進する。

また、システムを充実させるための強化スタッフの育成に努める。（国際レベルの指導者育成を図る。）

### 【実行計画】

＜男子代表＞

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A（8月）、欧州遠征B（1月）
- 3) 日韓定期戦（7月）
- 4) 国際強化試合（キール招待7月他）
- 5) アジア選手権（1/20～31）

＜女子代表＞

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A（6月）、欧州遠征B（8月）、欧州遠征C（1月）
- 3) 日韓定期戦（7月）
- 4) 国際強化試合（JSC女子支援他）
- 5) ポーランド招聘
- 6) 世界選手権（12/1～17）

＜男子アンダーカテゴリー＞

- 1) 強化合宿
- 2) U-22 東アジア選手権（6/26～30）
- 3) ユース国際（6/24～7/3）
- 4) ユース世界選手権（8/7～20）
- 5) U-16 日韓交流

＜女子アンダーカテゴリー＞

- 1) 強化合宿
- 2) U-22 東アジア選手権（6/26～30）
- 3) ジュニアアジア選手権（7/15～22）
- 4) ユースアジア選手権（8/19～27）
- 5) U-16 日韓交流

## 《強化支援グループ》

### 【基本方針】

2019年女子世界選手権・2020年東京オリンピックに向けた代表強化をサポートし、それらを各委員会を通じてアンダーカテゴリー代表のサポートに活かされるように推進する。

### 【実行計画】

- 1) 強化企画運営チーム  
強化企画運営チーム会議（合宿、国際試合等の企画、6回/年）
- 2) 環境企画運営チーム  
環境企画運営チーム会議（味の素Vプロジェクト、ONE TAPクラウドデータサービス構築、フィジカルテストの統一化とデータベース化等、6回/年）
- 3) 広報・マーケティングチーム  
広報・マーケティングチーム会議（広報戦略、スポンサー戦略、6回/年）

## 《情報科学専門委員会》

### 【基本方針】

- 1) 分析サポートについて
  - (1) ナショナルチームが活用するための情報（日本ナショナルチームおよび各国の分析）を提供する。
  - (2) ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価（人的および活動の方向性）の材料とする。
  - (3) 調査研究（特殊分析）を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上および強化指針の作成に活用する。
- 2) 体力サポートについて
  - (1) ナショナルチームのオリンピック出場、メダル獲得を実現するための「ハンドボール選手の体力ガイドライン作成」を主眼とする。
  - (2) 日本代表選手における体力を測定評価し、その現状を把握するとともに世界各国の選手との比較を行うことにより（1）の実現を図る。
  - (3) 各世代のハンドボール選手の体力を測定評価し、各世代別の体力基準値を作成する。その基準値をもとに体力トレーニング目標を設定するための体力ガイドラインを作成する。

### 【実行計画】

- 1) 男女シニア代表合同合宿帯同
- 2) NTSおよびトレーナー部会との体力関連打合せ（5月）
- 3) アンダーカテゴリー合宿および大会帯同（6月～9月）
- 4) ヒロシマ国際でのアナリスト養成研修会（7月）

- 5) 分析ソフトウェア年間ライセンス購入 (12月)
- 6) 情報科学委員会会議 (3月)
- 7) NTC\_TR内での映像アーカイブ用 Mac と HDD 購入 (5月)

#### 《医事専門委員会》

##### 【基本方針】

- 1) NAチームのメディカルサポート
  - (1) 合宿時のメディカルチェック
  - (2) JS-CPS (ジャパン・スポーツ・サイバー・システム) 活用会議
- 2) アンチ・ドーピング及び食育の啓蒙活動
  - (1) 各カテゴリー事前合宿時
  - (2) 全国大会各会場
- 3) 医事委員会
  - (1) 6月トレーナー部会開催時
  - (2) 2月または3月ハンドボール学会開催時
- 4) 全国ハンドボール活動における安全管理
  - (1) 医事委員会ホームページリニューアル
  - (2) 医事委員会ブロック会議および委員会

##### 【実行計画】

- 1) 代表チームのメディカルサポート (合宿時)
- 2) 代表チームのメディカルサポート (JS-CPS活用会議)
- 3) アンチ・ドーピング及び食育の啓蒙活動
  - (1) 各カテゴリー事前合宿時及び大学生以下の代表選手を持つ保護者への栄養教育
  - (2) 全国大会各会場及び出場選手へのアンケート調査
- 4) 医事委員会会議開催 (6月、2or3月)
- 5) 医事委員会ホームページのリニューアル
- 6) 医事委員会ブロック会議及び委員会 (6月、2or3月)

#### 《強化部会》

##### 【基本方針】

- 1) 世界及びアジアのハンドボールを常に検証しながら、段階的にフル代表チームで活躍できる選手の強化を図る。
- 2) 強化を図る過程において得た世界及びアジアのハンドボールの情報をタイムリーに発信できるように努める。

## 【実行計画】

- 1) 男子アンダー代表強化部会議（3回/年）
- 2) 男子アンダー代表強化部長現場視察（9回/年）
- 3) 女子アンダー代表強化部会議（3回/年）
- 4) 女子アンダー代表強化部長現場視察（6回/年）

## 《強化・育成戦略委員会》

### 【基本方針】

強化・指導・普及・NTS・ジュニアアカデミー（以下 NTA）・審判等からの情報を共有し、日本ハンドボールのレベルアップを図るための強化・育成の指針を提示する。

### 【今年度の目的】

- 1) 強化・育成戦略委員会は、日本ハンドボールのレベルアップを図るために、これからの強化・育成に関する情報や方向性を共有し、強化・育成の指針を提示することを目的とする。
- 2) 本会議の構成員を、議長（専務理事）、総括、強化本部長（強化担当）、普及指導本部長（育成担当）、強化委員長、情報科学委員長、NTS 委員長、NTA 委員長、指導部長、普及部長、育成部長、競技本部長、審判部長とし、必要に応じてアドバイザーや実務担当者を招聘する。
- 3) 本会議に作業部会を設置する。現在は、すでに進行している「テクニカルチーム」「日程調整ワーキンググループ」があり、必要に応じて追加編成する。
- 4) 平成 29 年度提案の強化・育成指針の進捗状況（達成度）をチェックする。
- 5) 四半期ごとにチェック、および進捗に応じた修正を行う。
- 6) 具体的な実施内容は以下の通りとする。

強化：各カテゴリーの国際大会の評価（stats 分析と戦い方）と強化指針との整合性をチェックする。

指導・普及・育成：各カテゴリーの国際大会の評価（技術・戦術の質的分析）と育成指針との整合性をチェックする。また、国内での指導指針の実施度をチェックする。

NTS：指導内容策定とその実施度をチェックする。

NTA：指導内容策定とその実施度をチェックする。

競技：国内大会の日程調整や大会開催、用具等に関するチェックを行う。

審判：指導指針に即した審判評価を行う。

- 7) 平成 30 年度に向けた強化・育成指針の検討と作成を行う。

### 【実行計画】

- 1) 委員会の開催（4回/年）
- 2) 作業部会の開催（4回/年）
- 3) 育成・強化指針冊子の作成

### 《トレーナー部会》

#### 【基本方針】

ハンドボール競技の発展と強化のための身体づくり、傷害予防、競技力向上サポート体制の構築ならびに全国のトレーナー連携、情報共有による知識・技術の向上

#### 【実行計画】

- 1) トレーナーブロック会議（6月）
- 2) トレーナー部会総会（6月）

## 2. 発掘・育成事業

### 《ナショナルトレーニングシステム（NTS）》

#### 【基本方針】

＜選手の早期発掘・早期育成＞＜優秀指導者養成＞＜一貫指導システム＞を柱として、将来に渡るハンドボール選手の個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育と人間力を育成するとともに、優秀指導者の指導力研鑽を同時に行う。

#### 【今年度の目標】

今年度より、センタートレーニングにおいて、従来の学校カテゴリーからアンダーカテゴリーに変更して招集することによって、高校1年生・中学1年生に光を当てるとともに、学校カテゴリーを越えた指導者相互の交流・研鑽による指導力向上を目指す。

#### 【実行計画】

- 1) NTS運営委員会（4月、11月）
- 2) NTSブロックシミュレーション（5月、11月）
- 3) NTSブロックトレーニング〔ブロック委託事業〕（8月～9月）
- 4) NTS検討委員会（8月）
- 5) NTS内容策定委員会（4、10、2月）
- 6) NTSセンタートレーニング（1月）

## 《ナショナルトレーニングアカデミー（NTA）》

### 【基本方針】

NTSによって選抜された優秀な選手を対象に、専門的で高度な個人技能・能力の育成を図る。日本はもとより海外においても活躍できるような国際感覚や教養を身につける。

加えて、NTS選考選手以外から特化プログラム（長身選手、左利き、GKなど）を組み、特殊な能力・ポジションを有する人材の発掘育成も実施する。

更に、選手・指導者の中央への招集に留まらず、地方へ指導者を派遣することによって、多くの指導者並びに保護者に対して、技術や体力・栄養に関する最新知識を伝達する。（ナショナルトレーニングキャラバン）

### 【今年度の目標】

NTSと連動することにより、選手選考を有機的に機能させるとともに、全国各地からの優秀指導者によるアカデミー指導スタッフを形成し、指導者研鑽も同時に目指す。新規事業であるナショナルトレーニングキャラバンを軌道に乗せる。

### 【実行計画】

- 1) ナショナルトレーニングアカデミー（4、6、8、2月）
- 2) ナショナルトレーニングアカデミー（特化プログラム、3回/年）
- 3) ナショナルトレーニングキャラバン（9、11、2月）
- 4) 大会視察等

## 3. 指導・普及に関する事業

### 《指導委員会》

日体協の指導者制度改定（平成30年度予定）と連動して、ハンドボール協会としての指導者養成システムの構築を目指す。そのために、国内外からの情報収集を積極的に行い、分析した知見や講習会の内容を蓄積していく。

①その内容を精査して指導者講習会に活用していくとともに、公認コーチ養成講習会におけるカリキュラム及び講義内容の精査を行う。

②各都道府県およびブロックにおける指導者養成の意識を高め、指導者講習会が計画的に実施されるよう促すとともに、連絡網を整備し、組織強化を狙う。

③指導者が身につけておくべき知識をまとめたハンドボール指導教本の作成を最重要課題とする。

### 【今年度の目標】

公認指導者の養成 30名純増。指導者研修会による指導者研鑽 150名。

地方活性化に向けて全国組織の整備強化。指導教本改訂版発刊におけるコンテンツ作成。

#### 【実行計画】

- 1) 日体協公認コーチ養成講習会〔日体協委託事業〕(6月)
- 2) コーチレフェリーシンポジウム(12月)
- 3) 指導委員会中央会議(12月)
- 4) EHFマスターコーチコース(1月)
- 5) 日体協公認指導者資格<免除適応コース>検定試験(2月)
- 6) 競技別指導者養成講習会〔日体協委託事業〕(2月)
- 7) トップコーチセミナー(2月)
- 8) 指導委員会全国研修会(2月)
- 9) 指導教本プロジェクト(5、12、2月)

#### 《育成委員会》

##### 【基本方針】

小・中学生におけるハンドボール環境をより一層充実させるために、一貫指導システム等の更なる拡充・発展を目指すとともに、2020年以降の日本ハンドボール界を見据えた選手育成方策について、具体的な事業展開を施行していく。

#### 【実行計画】

- 1) 小学生専門委員会(5、8、10、2月)
- 2) 一貫指導伝達講習会(8月)
- 3) 全国U-12指導者研修会(10月)
- 4) 日韓小学生親善交流事業(8月)
- 5) ブロック普及推進会議〔大崎財団助成事業〕(9回/年)
- 6) ブロック小学生大会助成事業(9ブロック)
- 7) 中学生専門委員会(8、12、3月)
- 8) U-15ブロック大会助成事業(9ブロック)

#### 《普及委員会》

##### 【基本方針】

東京オリンピック以降のハンドボール文化構築を見据えたハンドボール普及活動に取り組む。

- ①学校授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組む。
- ②ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備する。
- ③日本代表レベル選手のキャリア育成の仕方について現状課題を把握するとともに、女子チーム指導者が女性アスリートの心身の特性について理解を深める。
- ④ビーチハンドボールおよび車椅子ハンドボールの組織強化・拡充および普及発展の具体的方策を探る。

**【今年度の目的】**

ビーチハンドボールに関する取り組みおよび組織について、具体的な議論を開始する。

**【実行計画】**

- 1) ハンドボール研修集会（学校体育、8月）
- 2) 授業実践校研究委託（学校体育、6校）
- 3) 学校体育専門委員会（学校体育、4月、8月、12月）
- 4) マスターズ専門委員会（マスターズ、4月、3月）
- 5) 被災地支援事業（キャリアサポート、8月）
- 6) ビーチ専門委員会（ビーチ、8月）

**4. 競技運営に関する事業**

**【基本方針】**

- 1) 競技運営の充実のための規格統一
- 2) 競技役員の資質向上をはかる講習会を開催する
- 3) 競技運営の発展のための意見交換
- 4) 登録業務の推進を図る

**【今年度の目的】**

- 1) マニュアルの作成
- 2) 講習会の開催
- 3) 意見交換会の開催
- 4) 登録業務

**【実行計画】**

- 1) 大会視察および指導
- 2) 講習会
- 3) 競技運営連絡協議会（1月）
- 4) 検定業者懇談会（3月）
- 5) 国際大会スタッフ養成研修（12月 or 1月）

## 5. 競技規則（審判）に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 組織の改編・改善と指導体系の強化
- 2) レフェリーの発掘と効果的な育成（ビーチ競技を含む）
- 3) 競技規則と適切な競技運営の徹底
- 4) 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
- 5) 2019年・2020年，更にその後を見据えたレフェリーの育成

### 【実行計画】

- 1) 審判部会（4or5月、10月、1月）
- 2) 競技規則研究委員会（4、12月）
- 3) 審判指導に関する委員会（競技規則研究委員会と併催、4月）
- 4) 審査指導委員会、ブロック審判長合同会議（5月）
- 5) A／B級公認審判員審査会（6～7月）
- 6) 全日本大会担当レフェリー研修会（6月）
- 7) レフェリーアカデミー事業（5回/年）
- 8) JHAレフェリーコース（5～9月、3月）
- 9) トップレフェリー研修会（日本選手権時、12月）
- 10) 審判部合同会議（1月）
- 11) コーチレフェリーシンポジウム講師派遣（3月）
- 12) レフェリー通信システム購入
- 13) 有望レフェリー海外派遣

## 6. 総務に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 改革から変革につなげるべく、組織の活性化を推進する。
- 2) 懸案事項である諸規定、規約を見直し、ガバナンス・コンプライアンス体制の充実を目指す。
- 3) 適正かつ円滑な事業執行と事業進捗を図ると共に業務の効率化に努める。

### 【実行計画】

- 1) 総務委員会の開催

## 7. 広報に関する事業

### 《広報事業》

#### 【基本方針】

- 1) ハンドボールの注目度アップに繋がる発信型の広報を目指す。
- 2) 代表活動、協会事業、海外情報等の充実を図り、魅力的な広報を目指す。
- 3) マスコミとの交流を充実させ、ハンドボールの魅力を訴えて行く。
- 4) インターネット情報の充実・拡大を図る。

#### 【実行計画】

- 1) 広報委員会
- 2) マスコミ交流（1回/月）

### 《機関誌発行》

#### 【基本方針】

- 1) 日本協会HP化でのPDFによる機関誌へと変わる事で、従来は組織内の配布に留まっていた機関誌が、ネットを通じて一般のファンや組織外の方からの参照へと一気に拡大する。そのために、読みやすさや、写真を多用した見栄え等にも配慮し、毎月定例の発信を検討する。
- 2) 一般のファン・競技者と直接に繋がる媒体として掲載内容の充実を図り、ファンの拡大や競技者の更なる強化に結びつく触媒機能を果たせるように努める。

#### 【実行計画】

- 1) 機関誌編集会議の開催（版下作成委託含む、12回/年）
- 2) 座談会等企画記事

### 《インターネット》

#### 【基本方針】

- 1) ビジュアルを多用すると共に情報提供の充実を目指す。
- 2) コンテンツの充実を図る。
- 3) 新たな情報発信として「メールマガジン」の配信。

#### 【実行計画】

- 1) インターネット委員会の開催

## 8. 財務・会計に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 2019年、2020年に向け、諸事業の充実を図るためには費用の増加が予想される。
- 2) 諸事業の円滑な推進のため、協賛活動および支援活動による収益確保と各種補助金助成金の有効活用で収入確保を目指す。
- 3) 同時に事業内容をもう一度見直し、効率良い事業運営がなされているかどうかを確認しながら推進していく。
- 4) 更に2019年女子世界選手権開催の財源確保にも取り組んでいく。

### 【実行計画】

- 1) 財務委員会の開催

## 9. 国際に関する事業

### 【基本方針】

- 1) IHF(国際ハンドボール連盟)、AHF(アジアハンドボール連盟)、EAHF(東アジアハンドボール連盟)の一員として、メンバーシップを発揮し、国際貢献・国際交流の促進・発展に寄与する。
- 2) 各NF、地域エージェントとのコネクションを広げ、代表をはじめ、各カテゴリーの強化・育成が促進しやすい環境を整備・構築する。
- 3) 国際大会への派遣・受け入れに関する諸手続きを遅滞なく実施する。
- 4) 2019 熊本女子WC、2020 東京五輪開催に係る国際的活動に迅速に対応する。

### 【今年度の目的】

- 1) IHF・AHFからの書簡を翻訳し、関係部署へ連絡・報告する。
- 2) チーム派遣等に関する諸手続きなどを遂行する。
- 3) チーム受入れ等に関する諸手続きを遂行する。
- 4) レフリー、TDなど派遣手続きを遂行する。
- 5) 海外移籍等の実務支援を実施する。
- 6) IHF・AHFとの関係強化のために国際委員を大会派遣する。
- 7) 2019 熊本女子WC開催に係る国際活動を支援する。
- 8) 2020 東京五輪開催に係る国際活動を支援する。
- 9) 国際人養成プログラム受講者を検討し受講させる。

### 【実行計画】

- 1) IHF、AHF 総会出席 (11月)

- 2) 国際大会派遣 (12 月)
- 3) E A H F 会議出席 (4 月)

## 10. 事業企画に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 2019、2020 に向けて、ハンドボール界全体の強化活動に沿った事業を展開する。
- 2) 2019、2020 に向けた国内での代表露出を展開する。

### 【今年度の目的】

- 1) 日本協会主催大会の事業サポートを行う。
- 2) 男女日本代表チームによるイベント企画サポートを行う。
- 3) 国内大会スケジュール、内容見直し検討を行う。

### 【実行計画】

- 1) 事業企画委員会の開催 (3 回/年)

## 11. マーケティングに関する事業

### 【基本方針】

2019 年、2020 年に向けて、ハンドボール界の保有しているすべての魅力を前面に出し、マーケティング活動推進に総力を挙げる。

### 【今年度の目的】

ハンドボールの魅力を可能な限り、アウトプットして協賛いただける企業などを足で稼ぐ。

### 【実行計画】

- 1) 新規協賛企業の開拓、拡大
  - (1) オフィシャルスポンサー (+2 社)、の開拓
  - (2) オフィシャルサプライヤー (+2 社) の確保と拡大
  - (3) ナショナルユニフォーム広告
  - (4) 機関誌、ホームページ広告 (+5 社)
  - (5) 国内大会ごとの協賛会社獲得 (プログラム、ボード他) と都道府県、連盟へのマーケティング活動の指導
  - (6) 物品販売
- 2) 「広告代理店」「イベント会社」「グッズ企画販売会社」等との取り組みを推進

- 3) ファンドレージングの推進
- 4) オリジナルグッズ販売等
- 5) 各種イベントの企画（スポンサー感謝の集い他）

## 12. 日本リーグに関する事業

### 【基本方針】

- 1) 男女とも3回戦制とし、“強い日本ハンドボール”を目指す。
  - (1) 女子は、2019年世界選手権まであと2シーズンであることを意識し、代表活動を支援する
  - (2) 男子は、2020年オリンピックまであと3シーズンであることを意識し、代表活動を支援する
  - (3) 広報の充実を実現し各チームの集客戦略を確実に実行し、来場者数を増やす
- 2) リーグは、所属チームの集合体であり、各チームの発展がリーグの発展につながる
- 3) 企業チームとクラブチームの併存のあり方を見出す。(Jリーグとも、Bリーグとも異なるハンドボールリーグオリジナル)

### 【実行計画】

- 1) 大会運営
  - (1) 男子は、新たな3回戦制に伴う、より充実した大会運営を行う
  - (2) 女子は、新規2チームの参加により、リーグの価値を高める
- 2) 協会・リーグ合同で“強化ボード”を構成する
- 3) GM会ならびにリーグ委員会それぞれの機能・役割を充実させ、リーグの規律向上を図り、リーグの価値を高める
- 4) リーグ法人化の検討を具体的に実施する

## 13. 『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
- 2) 会員への情報、サービスの更なる拡充
- 3) 新会則へのスムーズな移行

### 【今年度の目的】

- 1) 会員数の5%増を目標に活動する。
- 2) 新制度へのスムーズな移行を推進する。

#### 【実行計画】

- 1) 20万人会ニュースの発行と送付（7月）
- 2) 物品の製作（特典、封筒、チケット）
- 3) 会員への発送業務
- 4) 月次報告書の作成（12回/年）
- 5) 新規会員受付、問合せ対応
- 6) 会員過疎地域の調査、会員増への対策立案（8～9月）

### 14. 東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト

#### 【基本方針】

2020東京オリンピックの大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある」と3つの基本コンセプト「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」をハンドボール競技にも確りと落とし込み、東京オリンピック組織委員会と協働で大会を運営する。

#### 【今年度の目的】

- 1) スポーツマネージャーを東京五輪組織委員会に配置する。
- 2) 東京五輪組織委員会の推進計画にもとづき、プロジェクトを編成し実稼働に入る。
- 3) 大会運営組織案を立案、各担当マネージャーを選出し、IFの承認を得る。
- 4) 会場ブロックプランの策定に協力し、NFとして落ち度のない計画を立案する。
- 5) 競技ボランティア募集に関し目途をたてる(東京都ハンド協会、学連などとの調整)
- 6) オリンピックムーブメントなどの啓蒙活動を実施する。

#### 【実行計画】

- 1) プロジェクト会議（5回/年）
- 2) プロモーション（VTR、キャンペーン企画・制作・実施等）

### 15. 2019女子世界選手権プロジェクト

#### 【基本方針】

熊本女子世界選手権大会の全国規模の協力体制の構築

#### 【今年度の目的】

大会開催にあたっては全国規模の協力体制が不可欠である。

そのためには、国はもとより 全国知事、全国市長会や都道府県ハンドボール協会に対して、大会プロモーション、協力依頼を行う。

**【実行計画】**

- 1) 大会運営組織の作成 (4月)
- 2) 熊本国際スポーツ大会の実行委員会とJHAとのタイアップ
- 3) JHA および国際スポーツ課 勉強会実施 (6回/年)
- 4) 国際大会開催
- 5) 各種大会の視察、熊本大会PR

**16. ガバナンスに関する事業**

**【基本方針】**

ガバナンス、コンプライアンスの再構築

**【今年度の目的】**

コンプライアンスの骨子策定 (コンプライアンス宣言策定)

**【実行計画】**

- 1) 委員会組織の再構築 (4月)
- 2) ガバナンス、コンプライアンス宣言の策定と発信 (8月)

**17. アスリート委員会**

**【基本方針】**

アスリート委員会の新設

**【今年度の目的】**

アスリートから見た競技環境の整備

アスリートを取り巻く様々な案件 (ドラッグ、賭博等) の抽出及びその対応

**【実行計画】**

- 1) メンバーの選考 (4月)
- 2) 活動骨子立案 (8月)

**18. 女性アスリート支援に関する事業**

**【基本方針】**

女子の競技レベルを国際レベルに引き上げ、国際大会でのメダル獲得を狙う。

**【今年度の目的】**

- 1) 国内で国際大会を開催し、ターゲット世代の重点強化選手に対する実践機会を提供する。
- 2) 強化関係者、国内チーム指導者に対して、育成環境整備に向けた学びの場を設定する。

**【実行計画】**

- 1) 女性アスリート支援事業（国際大会開催）

**19.日本選手権に関する事業**

**【基本方針】**

従来、地方協会へ全面委託していた大会運営を、日本協会を主体とした実行委員会方式で開催することにより、2019年、2020年に向けて大会運営ノウハウの確立と体制構築を図る。

**【今年度の目的】**

大阪を主体とした近畿ブロックで開催する。

**【実行計画】**

- 1) 日本選手権開催（近畿、12月）

**20. 国際大会に関する事業**

**【基本方針】**

国際大会の開催により、2019年、2020年に向けて国際大会運営経験を積むとともに体制構築を図る。併せて、代表チームの強化と国内のムーブメント向上を図る。

**【今年度の目的】**

- 1) ドイツ・THWキールを招聘し、JAPAN CUP を開催する。
- 2) 日韓定期戦を開催する。

**【実行計画】**

- 1) JAPAN CUP 2017 キール国際招待（7月）
- 2) 日韓定期戦（7月）